

研 究 結 果 報 告 書

日本における現代中国民族問題の研究

所属：内蒙古大学 蒙古学研究中心

役職：准教授

氏名：仁 欽

本研究は、日本における現代中国の民族問題と民族政策の研究においてどのような問題と課題が残されているのか、これらの問題と課題をどのように解決し解明するのか、さらにそれらの課題の解明がどのような意義をもつのか、などを解明することを目的とするものである。

実際の研究においては、まず、2015年6月下旬から7月上旬にかけて、来日し、日本における従来の中国全体の各少数民族を対象にした研究成果と使用されている資料を調査、収集する作業を実施した。具体的には、国立国会図書館、東京大学図書館、東京外国語大学図書館、アジア経済研究所図書館、愛知大学図書館、早稲田大学図書館などにおいて、調査、収集をおこなった。同時に、加々美光行（愛知大学名誉教授）などの中国民族問題の専門家を訪問し、意見交換をおこなう。次に、調査、収集でえられたものを分析し、論文を執筆した。

本テーマの研究調査の結果からいえば、第一に、日本では現代中国の民族問題と民族政策に関する研究が進んでおり、さまざまな視点からのすぐれた研究がなされてきたが、日本における現代中国の民族問題と民族政策の研究においては、歴史研究に不可欠・不可分の文献史料、とくに文書資料の発掘は、充分でない。第二に、激しい社会変動をみせた20世紀の現代中国においても、1950、60年代はきわめて重要な時期である。この時期の中国共産党の対少数民族政策はその後も一貫し、それが、さらに、現在にまでいたっている。いいかえれば、中国共産党の少数民族政策は、現在の中国の民族政策と緊密な連続性をもっており、こんにちの中国の民族問題の根源につながるものが多い。しかし、上記の時期の民族政策の実施と民族問題の実態など課題がまだまだ多く残されている。

研究成果の公表について

口頭発表 （題名・発表者名・会議名・日時・場所等）

「内モンゴル東部蒙・漢雑居地域における民族関係——『四清運動』を中心に——」、2015年度日本アジア政経学会秋季大会、2015年10月17日、常磐大学

論文 （題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）

書籍 （題名・著者名・出版社・発行時期等）

『現代中国の民族政策と民族問題——辺境としての内モンゴル』集広舎、2015年10月28日